

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『ひまわりの理念』の中に、地域の人達が気軽に立ち寄れるグループホームを目指すとあります。昨年度は地域のバーベキューに参加したり、グループホームの新年会に来ていただくなど年数回地域の方々を招き行事をともに楽しむと共にグループホームを知って頂く企画を行っています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は年度ごとの事業所の方針とも当てはまっており、職員一人ひとりが自らの業務目標を上げてお客様が生き生きするための努力をしています。外食やドライブなど外出企画を積極的に行っていることもその一つであると思います。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	昨年同様に意見としては、「新年会やバーベキューの時にご家族や地域の方を呼び交流を図っている。」と言う意見もありました。しかし、昨年度アドバイスをいただいた『ひまわり通信』の再開にまでは至っていません。	『ひまわり通信』の再開までに至っていないため、今年度は地域へ向けた情報発信の手段として取り組んでいきます。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	季節の行事では地域の方々やご家族様を招き交流を深めています。地域の方からは採れた野菜などをいただくこともあります。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議や畑作り、行事などの行き来を通して交流を図っています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	共用型認知症対応通所介護を行っている関係で、在宅のお客様やご家族様との関わりを通じて認知症介護についての理解を発信できていると思います。また、昨年度からは認知症サポーター養成講座を地域包括支援センターと協力して行っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果からは、使いやすいマニュアルの整備を行い、センター方式も活用が増えてきています。しかし、ひまわり通信の発行と運営推進会議の開催につき改善が十分でないです。		職員皆で話し合い具体的にどのように改善・実践していくかを今後十分議論していきます。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価のみではなく法人内のサービス評価の報告なども行っています。また、地域の方に参加していただいた行事の感想、職員とお客様の関わり方の客観的な意見なども聞く事が出来と思います。しかし、上記にもあげましたが、運営推進会議の開催数が十分でないことが反省点です。		開催の意義や有用性は十分に理解できているため、年度初めに年間の開催日を決め、その都度調整をこまめに行っていく。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では、お客様の介護保険の更新申請や認定調査の際に関わる事が多いです。また、津南町で行われている地域ケア会議への参加により行政だけではなく他の事業所とも交流を図っています。昨年度からは地域包括支援センターとも協力して認知症サポーター養成でも交流を図っています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度に関してはまだまだ理解が乏しい状況です。事業所及び法人内でもこの手の勉強会はまだまだ少ないのが現状です。		地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関しては事業所外部(包括支援センターなど)から講師を招き講習会を行ったり、外部の研修への参加を奨励していきたいと思えます。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	昨年度より法人内において委員会活動を行っています。事業所内においても身体拘束・虐待に関しては職員個々に注意を払っています。昨年度は津南事業部で1回と事業内で1回勉強会を行っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には内容の説明などにつきご家族側の納得がいただけるように丁寧な説明を心掛けています。現在苦情やご家族さまとの信頼関係を壊すような事態もなかった為に比較的問題が無いと思われます。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>お客様からの不満・苦情は顧客フィードバック報告書としてあげられています。昨年度も私物の紛失につき報告書が上がっておりご家族様の気持ちに配慮しながら対応しました。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ご家族様あての近況報告書やお便りを送っています。日頃の様子を写真などを入れてお知らせしています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様の不満苦情も顧客フィードバック報告書にて書面に表しています。その他運営推進会議などではご家族様の本音の部分も聞けるため、不満としてや率直な意見として会議に出た話に関しては議事録という形で公表されます。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>一般職員の感覚ではこの「機会」かどのような場所なのかイメージできていなかったようで、無回答でした。実際に積極的に意見を出せる雰囲気も少ないのかもしれませんが、一般的には職員会議やひまわり会議といった場がその機会となっています。</p>	<p>運営に関する意見提案の場として職員会議やひまわり会議があるという認識を持ってもらう事と、自分達のグループホームや組織という面にもっと関心を持ってもらえるように伝えていく必要があります。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日々必要に応じて行われていると思います。緊急時の対応などはその例ではないかと思います。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>昨年度と違い職員からの回答はありませんでした。法人内の人事異動等は毎年のことであるため、その都度お客様の不安は職員が聴いている感じています。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>昨年度の評価結果からマニュアルを再度整備し、フロアごとに配置しています。しかし、職員の入れ代わりがある中、新人職員への教育やマニュアルの勉強会は定期的に必要と思われます。</p>	<p>マニュアルの理解というところでは定期的な研修が必要であるため年間の勉強会の中に盛り込んでいきたいと思えます。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各役職別の研修が法人内・グループ内にあり、そのほかに職種別の研修も開催されています。新人研修や中堅職員研修も法人内で行われておりその他外部の研修についても、年1回自己啓発費用として上限3万円で自分の行きたい研修にいけるようになっていきます。	
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	魚沼地区のグループホームの集いが年5回くらいあります。その他津南町では、地域ケア会議がありそこでグループホームだけではなく行政も交えた中で様々な事業所が情報交換を行っています。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	苗場福祉会での仕組としては目標管理面接やその他の面接がストレス解消の取り組みとしてあげられます。しかし、一般職員においてはこのような認識は少ないようでこの項目に対する回答はありませんでした。	職員の仕事に対するやりがいを見出せるようにするための仕組みとして目標管理があるため、随時目標面接などで職員のモチベーションアップとストレスの軽減につなげていきたいと思えます。
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	この項目も法人内では目標管理制度において仕組として取り入れられています。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	この項目に関して職員からの回答はありませんでした。入居時からの本人との関係の構築は職員個々にまたはチームとしての関わりが出来ており、不安や悩みに関してもお客様の話をよく聞くように努めているという意識が強いと思われます。	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記23の項目と同様で回答はありませんでした。家族とは毎月の近況報告書や面会時に要望や意見を聞く事で信頼関係が築けるように注意しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の相談についてはじっくりと時間を取りご家族様の思いを聞きご本人の現状につき説明を受けている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	当事業所の在宅サービスから移行するお客様も多いためか、馴染みの関係の継続が図られているお客様も多い。また、そうでない場合もあるが事前見学をして頂くなどしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の関わりの中でお客様の笑顔を見るための行事企画(喫茶、お茶会、外食など)を進めています。		喜びだけではなく不安や悲しみ怒りといった気持ちにも正面から向き合えるような関係作りの重要性を学ぶ機会が欲しいと考えている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	高齢化と重度化が進み、とても事業所だけでは支えきれない現状に直面しています。共に支え合うのはご家族だけではなく医療や地域の協力も今後非常に重要になっています。現在ご家族様とご本人様の状態や今後の生活支援の仕方につき必要に応じて連絡を密にしています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族との関係性の問題もあるため、一概に全てのお客様・ご家族様につき支援できているとは言えません。少なくとも精神科の受診やお墓参り季節の行事企画などで関わりが持てるように配慮しています。また、それを円滑にするための毎月の近況報告とお便りで様子を知らせています。		ご家族様がグループホームに足を運ぶ回数が少しずつ増えるようにご家族様とのコミュニケーションを大切にしていこう。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小学校の運動会への参加、地元の祭りへの参加、彼岸の仏様参り、など昔の自分を知っている人達が温かく自分を迎えてくれるそんな体験を少しずつしていただいています。		お客様個々の馴染みの場所、馴染みの人についての理解を深め、一人でも多くの職員がお客様とそのような体験が出来るよう外出を進めていく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の認知症の症状によっては、関係性を上手に維持できない方もいます。このような方に対する他のお客様との関係性の維持に対して日々試行錯誤しています。		職員は日々試行錯誤しながら出口の見えない試練と戦っている感じである。まずは認知症に対する知識・専門性の向上を図っていく必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	多くは入院退居のため病院への面会になるが、他施設への生活の場の移行のときは他施設への情報提供も含めてその後の経緯を見守っています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月各ユニットでチーム会議を開きそこで行われるカンファレンスでご本人の希望や意向につき話をしています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員からの回答は少なく、ここではお客様の過去についての把握に努め十分に理解していると考えている職員は少ないと読みとれます。		本人本位のサービス提供をするためには、お客様の過去の経験が大切であるが、それが十分に把握されないままサービスが提供されているところがまだまだあるようだ。職員の認知症介護に対する認識に差があるためと思われる。知識の習得を進めると共にセンター方式をより活かせる取り組みが必要であると思う。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	現在の状態にはよく目が配られているのではないかと考えられます。毎日お客様の状態につきミーティングの際に職員同士で話し合いをしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	この項目も職員からの回答は少なかつた。現在もご家族様がなかなか来れない方も多くご家族様とのコミュニケーションが十分ではないご家族もいます。しかし高齢化・重度化によりご家族様とご本人の今後の生活につき話を増やす機会が増えてきたため最近ではご家族様の意見を聞きやすくなっています。グループホーム内では毎月ユニット毎にカンファレンスを行っています		ご本人様の生活につきこれからも積極的にご家族様へ相談や連絡を入れて、共に考えて行く姿勢を取り続けたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に毎月カンファレンスを開きその都度ご家族様にプラン変更につき説明し承認を頂いています。プランの変更を基本的に3ヶ月に1回ですが、カンファレンスは毎月行い細かな変更については面会時あるいは電話にて承認を頂くようにしています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日お客様の状態やかわったことがあれば記録し、職員同士情報を共有しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族様の希望によって外泊を支援したりしています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には運営推進会議のほか畑作りも協力して頂いています。消防関係は年2回の避難訓練のほか心肺蘇生の講習、小学校の児童との交流は2箇所くらいです。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	高齢化・重度化する中で他のサービスを考えるとき、特別養護老人ホームへの住み替えなどその都度ご家族様と相談をしています。今現在のご本人様の状態とご本人にとって望ましい生活につきご家族様と他施設の相談員などと相談しながらきめています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	職員にはあまり馴染みがない為か回答は実施していませんでした。権利擁護については今のところ対象となるお客様はいないため今後必要に応じて職員向けの学習会を行っていきたいと思います。包括支援センターとの協働は在宅関係と認知症サポーター養成で関わりがあります。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力病院である津南病院がかかりつけになります。お客様の健康管理に対しては受診の際に担当の先生との関係作りも出来ていると考えています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科受診の時は担当の先生に近況報告書という形で普段の様子をお伝えしています。結果報告は一緒に行ったご家族様から受けるようにしています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎週1回血圧測定や身体状態などにつきお客様の健康管理に対して担当の看護師がチェックし、介護職員にアドバイスをもらうようにしています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	お客様の入院時の情報提供や退院時の情報提供という点では問題なく出来ており互いにその都度連絡しあっています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化したお客様に関しては、医師の診断や今後予想されるリスクにつき十分に話し合いを行っています。ご家族様や担当の先生との間で情報共有が十分に出来ていないとその方の人生の最後に向けた十分な支援が出来ないため注意しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在当グループホームでも大きな問題です。事業所、医療機関、ご家族様の役割りや限界は互いに理解した中で進めないと誤解を生じてしまうため、ご家族様の希望にどこまで添えるかを検討し見極める努力をしています。どこで折り合いをつけるかを見極めとそれに対するご家族様の納得が大切だと感じています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までに入院退居の他は、住み替えのお客様は2名でした。最近のケースでは隣接した老人保健施設への入所であったため事前の情報交換は十分行えました。その後のご本人様の様子等も確認しやすかったと思います。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーについては、トイレ誘導の際の声掛けへの配慮(小さな声で)や個人情報保護についても毎年勉強会を開催し記録物の放置はしないように配慮しています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>衣類の着脱などご本人の出来る範囲で声掛けにてやって頂いたり、買い物などの希望がある時は職員と一緒に買って買い物して頂きます。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝の起床時間や食事の時間など、ご本人が無理したくない時は好きな時間に起きていただいたり、後で食べていただくこともあります。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>昔からの行きつけの美容室や床屋をもっている方はなじみの店に行きます。美容室の方も昔からの付き合いなので対応も心得ていてくれます。そのほかの方は身体的にまたは認知症の症状により、事業所で訪問理容を活用しています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>お客様の身体的状態や認知症の状態により、個々に出来る能力に応じて職員とお客様が協力しながら行います。苦手な食材や嫌いなもの場合は、代替のおかずを用意します。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご本人の希望がある時は飲み物やおやつ等を提供していません。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	特別意識していないものの職員は出来ていると感じています。出来る限りオムツや紙パンツの使用はしないようにご本人の力を生かそうと日々努力をしています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日々入浴できるようお客様個々に声をかけて希望時に入浴して頂いています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の年齢や生活習慣にあわせて居室で休んでいただく方もいれば、居間で他の方と一緒に休んで頂く方もいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	高齢化と重度化の中で役割、楽しみ、気晴らしを持って生活している方は少ないと感じている職員が多いためか回答はありませんでした。ただ、日々の生活の中で洗濯物を自分が干したりたたんだりすることを仕事と思っている方もいますし、散歩や買い物に行きたい時には気晴らしも含めて出掛ける事もあります。個々の能力によって差があります。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事に関してはご家族様の了解のある方のみで、その都度何か欲しいものがある時は一緒に買い物に行き購入してもらっています。出来る方にはレジでお金を支払っていただきます。		自分で何かを買う事を楽しめるお客様に対しては必要性の高い支援だと思う。また、そうでない方も時々自分で何かを買う事を楽しんでもらいたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は外出に出かけることが多いと思います。また散歩やドライブや買い物などを出来るお客様で出かけるほか、建物周辺でお茶のみをしたり外気浴を楽しんだりします。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回は企画を立てて外出を行なっています。季節ごとの外出企画はご家族様にも声を掛けて一緒に行くことがあります。ひまわり畑の見学、地元の祭りへの参加、花見など。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人自らが電話をする事は少なく希望する方には職員が援助を行っています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員はご家族様の訪問や面会を快くお迎えしていると思います。ご家族や友人の方との写真を撮ったりしてよき思い出となるように演出しています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年度マニュアルが整備され勉強会も何度か行われました。しかし、『禁止となる具体的な行動』についてはまだ十分な理解とまでは行かないように思います。		基本的な倫理観からして大まかにしてはいけない事は理解している。『禁止となる具体的な行動』については、職員が十分に理解しているとはまでは行かないため、さらに勉強会などで理解を深めるようにしたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事の弊害は充分理解できていると思われる。日中玄関には鍵を掛けないが、センサーがついていて来客者や出て行く人を感知できるようになっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は安全のために所在確認の必要性に迫られる事が多い。出来る限りの見守りとフローを空けないよう職員同士声を掛け合っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	選択場にある洗剤や薬品類はお客様が間違っって持っていくないように鍵をかけて管理しています。縫い物をした針などの所在は職員が把握し片付けるようにしています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	救急法の勉強会も法人で1回、事業所で1回行なっています。避難訓練も年2回総合訓練を行いそのほかにも法人内で協力体制を取るための通報訓練を行なっています。		新人も入職したため、随時勉強会を開催したり部署外の勉強会への参加を促し緊急時の対応などにつき学んでもらいたいと考えます。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルを作成し、各フロアーに置きいつでも見られるようにして対応しています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人内で地区消防班長さんや地区総代さんなど、地域の方々との協力体制は一応出来ています。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	毎月の近況報告書にて個々に連絡しています。重度化に伴い、ご家族様との話し合いの機会が増えており随時現状と今後起こりえる危険(転倒、嚥下障害など)につき説明をさせてもらっています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日常の行動の中からもいつもと違うと感じた事を朝礼時や昼ミーティングの際に話し合っているほか、体温測定、血圧測定、体重測定などを定期的に行い情報共有しています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回与薬の時は薬の一覧表にて確認し服用して頂いています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の排便は排泄チェック表にてチェックし朝礼時にユニットのお客様の排便状況を確認しています。下剤の服用の必要性や水分摂取の奨励など朝の時点で情報の共有を行っています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週1回お客様全員の義歯洗浄を行い、毎食後口腔ケアをしていただいています。歯磨き一つにしても過去の生活習慣が元になっているため実際は個々の対応となっています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあった食事の柔らかさや食事形態でお出ししています。また、必要に応じて水分チェックを個々に行っています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人全体で感染症マニュアルを作成し、勉強会も実技を含めて年に数回開催されています。基本的に通年手洗いうがいと施設内の消毒に努めています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日冷蔵庫の中の食品はチェックし不要なものは廃棄しています。調理用具については毎日消毒しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	冬は玄関周りが滑らないように凍結防止剤を撒き、玄関周りにはブランターを置いたりして温かい雰囲気になるように努めています。		
81	居心地のよい共用空間づくり その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	共用空間は概ね静かであり落ち着いた雰囲気だと思います。フローアには季節感を出すための職員とお客様共同の作品が飾られています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ではその方が過しやすいように個々のお客様の関係性を考慮して座席を配置しています。居間や玄関横のソファなども共に過せる場所として、またお一人でお客様が個々に好きなように過せるようになっていきます。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やラジカセ、好きな写真など個々にこれまでの生活の中にあつたものをそろえている方が多いと思います。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	その日、その季節の気温に合わせ室内の温度調節をしています。換気は毎日掃除の時にしています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体的特徴から配慮しているとしたら、車椅子のお客様やシルバーカーのお客様のために食堂のテーブルの配置をその時々で変え、通やすくしています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗濯物たたみや食事の盛り付けなど、その方ができるところをすることで個々の能力維持に努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	季節により玄関や施設周辺にプランターを置いたり花壇に花を植えたりとお客様と一緒に歩いており季節感を感じて頂いています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

重要な取り組みは昨年同様職員教育です。認知症介護のスキルアップが仕事に対するモチベーションをあげ介護職としての自分の成長につながります。認知症と認知症介護に対するスキルが上がり職員自らが生き生きし、より認知症介護のスキルのあがった職員に関わってもらうことでお客様も安心感がうまれて日々の生活が生き生きしてくると思います。職員が生き生きし、お客様が生き生きする。そのための土台作りを今年度も続けていかないとはいけません。又今年度は学習療法を導入してしていく予定です。認知症の脳リハビリの有効な手段となるように事業所を上げて取り組んでいきます。